

令和7年度 鈴鹿市立鈴峰中学校 学校関係者評価書

鈴鹿市立鈴峰中学校				
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上×ICT活用	<p>1 授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修テーマ「自ら学ぶことのできる生徒の育成」に沿った授業づくり・授業改善(公開授業:各学期1回) ・中学校区としての取組:小中合同研修会(4月実施), 小中ブリッジ交流(5月実施), 学力向上担当者会(毎学期1回実施), 夏季合同研修会(学力向上部会の開催), 各校の公開授業への参加など <p>2 基礎学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業(1年生:数学・2年生:英語)の実施 ・家庭学習定着の取組:家庭学習の手引き, 家庭学習強化週間(校区) <p>※全国学調, みえスタディ・チェックの結果全国平均以上</p> <p>※「学校の先生は自分たちにわかりやすく授業を工夫してくれる」90%</p> <p>3 ICTを活用した授業づくり・授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科部会の充実(週1回実施:授業づくり, 指導案検討など) ・校区小学校と連携した授業改善:クラスルームを活用した情報共有 ・先進地視察(年間派遣人数:のべ4人) ・ICT支援員を活用した研修会の実施 	<p>△全国学調の結果は、国語(-1.3)、数学(-0.3)と全国平均を下回った。</p> <p>○全国学調の問題形式別では国語、数学ともに記述式の問題および思考・判断・表現の問題において全国平均を上回る結果となり、鈴峰中学校の授業づくりや授業改善の取組の成果と言える。</p> <p>△家庭学習の取組に課題が見られる。 ※学力調査「生徒質問紙」より</p> <p>⇒平日1時間以上:49.4%(-12.2), 休日1時間以上:44.4%(-13.5)</p> <p>○「学校の先生は自分たちにわかりやすく授業を工夫してくれる」</p> <p>⇒R7:99.1%(昨年度98.7%)</p> <p>○年間3回の研究授業には市外や県教委からも多数参加していただき、鈴峰中学校の授業改善の取組に一定の評価をいただいた。また、鈴峰中学校の授業改善の取組(主体的に学ぶことのできる生徒の育成)への注目度は非常に高い。</p> <p>○先進地愛知県春日井市高森台中へ3人、石川県加賀市へ1人、市内リーディングDX研究発表へ4人派遣した。また、中学校区の全ての小学校も県外視察をとおして同じように授業改善に取り組んでいる。</p> <p>○本年度、小中合同研修会や小中ブリッジ交流など、学力向上における中学校区として新たに取り組むなど、小中連携が進んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上、テストや家庭学習も大切だけど、人間力を身につけさせたい。 ・学力は学校におまかせするしかないです。(もちろん、家庭は家庭学習を担うのがあたりまえですが、なかなかできないのが現状です…) ・授業研究や研究会、研修など、仕事の軽減をはかりながら、日々の1時間1時間の授業を勝負していただければと思います。 ・先生方の日々の取組、姿勢に感謝です。 ・全国学調やみえスタ等の結果を分析し、授業改善に努めている先生方の努力に敬意を表する。 ・中学校区内の公開授業を通して、小中一貫した「主体的な学び方への授業改善」をめざしてほしい。 ・中学一年時より、効果的な学びを進め、指導力の向上、学力向上へつなげてほしい。 ・生徒たちの授業満足度は99.1%と非常に高い数値を示している。さらに厳しく評価するなら、「あてはまる」と回答する積極的満足度の変化で分析されてはどうか。 ・「学校の先生は自分たちにわかりやすく授業を工夫してくれる」の満足度が99.1%(昨年度98.7%)と高い数値があらわすように、先生方の取組を評価します。学職だけがすべてではありませんが、今後とも、よろしくご指導ください。 ・ICT活用が多くなり、文字を書くことが少なくなってきたように思うが、鈴峰中は記述式の問題の正答率が全国平均を上回っていることはよいことだと思う。 ・AI活用の注意も必要だと思う。 ・家庭学習の取組は、5教科だけでなく音楽・美術・技術家庭・保健体育を加えた項目や習い事の項目なども加えたらどうか。 ・家庭学習時間が少ない傾向にあるので、生徒が自宅で学習に集中できる時間を計画的に生み出すヒントを与えてほしい。 ・家庭学習の進め方を具体的に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の研修主題である「自ら学ぶことのできる生徒の育成」を目指し、日々の授業づくり、授業改善に取り組んでいく。 ・教科部会を中心に、それぞれの教科における探求のプロセスを意識して、自走できる生徒の育成を目指す。 ・鈴峰中学校区として、教職員が同じ方向で、生徒を育てていくというスタンスで、授業改善における小中連携、小中連携を進めていく。 ・愛知県春日井市等の先進校視察や市内小中学校の研究発表への参加を行うことで、本校の授業づくりや授業改善に活かす。 ・生徒の端末活用については、引き続き授業で活用していくとともに、さらに校内研修や研究授業を通して、ICTの効果的な活用について研究を進める。 ・生成AIの活用に向けて、利用ルールやガイドラインの策定など、教育委員会とも連携しながら準備を進めていく。 ・家庭学習については、全学年配付の「家庭学習の手引き」を使って、自分で考え、自己調整しながら家庭学習に取り組めるよう指導していくとともに、学校だより等を使って、保護者にも啓発していく。 ・朝の短学活の時間を使って、読書や朝の学習を実施する。
	長期欠席対策	<p>1 新たな不登校を生まない生徒指導の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員と生徒との関係構築と「生徒承認活動」の推進 <p>※鈴鹿市アンケート「先生はあなたのよいところを認めてくれる」95%</p> <p>※鈴鹿市アンケート「クラスは安心して学ぶことができる」95%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鈴鹿市「不登校支援初期対応マニュアル」の共通理解と実施 ・校内生徒指導・支援会議の開催(毎週)、情報共有と対応等協議 <p>2 中学校区における「長欠・不登校対策」の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区小学校と連携した授業改善:クラスルームを活用した情報共有 ・校区校長会での情報共有(児童生徒の状況や各校の対応等) <p>3 SCや関係機関と連携した不登校対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SCや教育支援課等との連携、必要に応じて校内ケース会議の開催 	<p>○隔週(木曜日の掃りの学活)で「いいとこさがし」を、端末を使って実施することで、リアルタイムで友だちのコメントを見ることができた。</p> <p>○「先生はあなたのよいところを認めてくれる」97.3%(鈴鹿市92.6%)</p> <p>「クラスは安心して学ぶことができる」94.5%(鈴鹿市88.1%)</p> <p>△12月末現在10日以上30日未満の欠席生徒数(20人)は昨年度(36人)より減少している。丁寧な初期対応の成果と言える。</p> <p>△30日以上欠席生徒数(11人)は昨年度(11人)と同じである。行事等に参加することができた生徒もいる。</p> <p>○長欠・不登校対策における小中連携として、校区担当者や校区校長会にて、児童生徒の状況や各校の対応等を共有、検討することができた。兄弟関係にあるケースもあり、小中が同じように対応することができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席した生徒がに対して、欠席が続いたときの対応がきめ細やかで、長期欠席者を無くす努力が、前年度と比較して減少しているので、学校の取組の成果として現れている。今後も、校区内の小学校と情報共有して、新たな長期欠席者を生まないように進めていただきたい。 ・長期欠席者が多いのは驚きました。しかし、学校運営協議会の中で、長期欠席者のほとんどが進学希望であり、それぞれの希望する学校に進学できると聞いて安心しました。 ・不登校になる要因はいろいろあると思いますが、これからも更なる対応を ・校区での小学校との情報共有、連携、教職員間、生徒との信頼関係、様々な共通理解のもと、今後も丁寧に取り組んでほしい。 ・中学校区で、情報(子どもたちの様子や対応の仕方など)共有を密に行い、早期対応、よぎれない支援をして、同年代での学びの楽しさを体得させてほしい。 ・不登校・長欠の実態を分析され、個々の生徒に応じた対応をお願いしたい。 ・生徒のメンタルケアの教科と充実化を図る。
非認知能力育成	<p>1 生徒承認活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いいとこみつけ」を定期的に実施し、生徒の自己肯定感を含む市内共通の4つの要素を高める ・生徒主体の特別活動(学級活動や生徒会活動など)の実施 <p>2 小中で連携した取組の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季研修会等で非認知能力の現状と育成について調査研究を行う <p>※鈴鹿市内小中学校共通の「非認知能力アンケート」における4つの要素(①やりぬく力、②自制心、③自己肯定感、④社会性)の各項目否定的な回答をする生徒の割合を、①②③は10%未満、④は1.8%未満を目標とする</p>	<p>○「いいとこみつけ」を定期的(隔週木曜日掃りの学活)に実施した。</p> <p>○学校行事や生徒会活動において、生徒自らが伸ばしたい非認知能力を意識づけさせ、主体的に取り組めるよう指導・支援した。</p> <p>○鈴峰中学校区で統一して5月9月、11月にアンケートを実施し、児童生徒の変容を考察するとともに、各校の取組等を検証した。</p> <p>⇒鈴峰中学校のアンケート結果から、学年が上がるにつれて、各項目の否定的回答の割合が低く、学校・学年の取組の成果が見られた。</p> <p>○夏季研修会(非認知能力育成部会)で各校の取組を交流した。</p> <p>○4つの要素11月のアンケート結果(否定的な割合)</p> <p>⇒①やりぬく力:4.59%○、②自制心:10.09%△</p> <p>③自己肯定感:7.34%○、④社会性:0.00%○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感は生涯大事です。「アッパレ自分」って思えるようになってほしいです。他の人に対しても「アッパレ〇〇」って素敵です。4つの要素を含めて、これから生きていく上でとても大切ですが、とくに自制心は大事だと思います。社会の中で理性や自制心があると、犯罪も少なくなり、もっと誰もが住みやすい世の中になると思います。 ・学年が上がるにつれて、よい方向に向かっている(否定的回答の割合が減っている)とのこと、うれしいですね。自分を愛し、認め、自信をつけて成長していると考えたいです。 ・「いいとこみつけ」、よい取組だと思う。 ・先生が関与しない、生徒たちによる授業、もしくは「いいとこみつけ」を実施できないか。クラスで班を分けて生徒たちだけの話し合いの場を設けてみてはどうか。話し合いのテーマは先生から提案し、発表はしないが各班ごとに話し合いの結果を提出するようにはどうか。 ・今の取組のままでよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や学年の取組等を実施する際に、自分が伸ばしたい非認知能力(4つの要素)を考える時間を取るとともに、ふりかえりの時間を取る。 ・日常的なSSTや隔週の「いいとこみつけ」など、日々の教育活動の中でも意識的に取り組んでいく。 ・生徒会活動や学級活動等、生徒が主体的に取り組む活動では、生徒自身が達成感や成就感を感じられるよう、教職員は非認知能力の育成の視点で支援していく。 ・これまで校区として取り組んできたこと(ボジティブメッセージ、アンケート調査など)を引き続き継続し、校区の児童生徒の非認知能力の育成に努める。
人権教育	<p>1 いじめのない集団づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権学習の充実 ・校区人権フォーラムの開催 ・研究授業の実施 <p>※「いじめを見たり聞いたりしたときに、やめるように言ったり誰かに伝えることができる」90%以上</p> <p>2 人権教育に関する校内研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修における視点生徒の共有とレポート検討 ・夏季合同研修会「人権講演会」の実施 	<p>○鈴峰中学校の人権教育カリキュラムにしたがって、1年生は多文化共生、2年生は平和学習と部落問題学習、3年生は部落問題学習に取り組んだ。</p> <p>○「いじめを見たり聞いたりしたときに、やめるように言ったり誰かに伝えたりすることができる」92.5%(令和6年度92.9%、令和5年度92.8%)</p> <p>○校区人権フォーラムでは、中学生の司会のもと、児童生徒がそれぞれ意見を出し合い、活発な議論が展開された。身のまわりの情報を鵜呑みにせず、正しく判断し、行動することが大切であると確認された。</p> <p>○人権教育の公開授業(全学年)を実施し、校区小学校の教員が参観に参観していただくとともに、鈴峰中学校の人権教育の取組を知っていただいた。</p> <p>○夏季合同研修会で、鈴鹿市人権センターより講師をお招きして、人権講演会を実施した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校区人権フォーラムはとてもよい取組だと思うが、参加する人数が少ないように感じる。 ・人権に対する感性を育て、実行できる子どもを育てていきたい。そのために、日常の気づきを大切にしてい、広めて、考える場を設定していきたい。 ・校区人権フォーラムでは、生徒たちそれぞれの意見でまとめていく場なのかもしれませんが、せっかく地域からたくさんの方が参加しているのでもう少しまわりの意見も聞かせてもらいながら気づくということにつなげていってもいいのではないのでしょうか。 ・いじめに関しての問題は今後でも大切なことだと思うので続けてほしい。 ・いじめから欠席につながるようには注意をお願いしたい。 ・いじめは犯罪であるという意識を持たせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動や学校行事、教科指導など、すべての教育活動を通して、生徒の人権意識の向上と実践力の育成に取り組む。 ・校区人権フォーラムについては、昨年度に引き続き、全校でも同様の課題に取り組むとともに、学校運営協議会委員の方々の参加をお願いする。 ・人権教育の取組が教職員にとっての負担とならぬよう、目的や意義をしっかりと共有しつつ、効果的な取組を行う。 ・校区としての小中人権教育カリキュラムを見直し、小中9年間を見通した人権教育の実践に努める。
地域連携	<p>1 小中9年間を見通した教育活動の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鈴峰中学校区学校運営協議会拡大協議会の開催 <p>2 学校行事等の参観</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育祭や文化祭の参観 <p>3 地域への発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だより(地域回覧)やホームページによる地域への発信 	<p>○校区拡大大学校運営協議会を開催し、校区全体で児童生徒の課題や地域連携について交流することができた。また、昨年度に引き続き、部活動地域移行に関して鈴鹿市教育委員会事務局教育指導課より説明をしていただいた。</p> <p>○校区人権フォーラムには、多くの学校運営協議会委員のみなさんに参加していただき、児童生徒の活動の様子を見ていただくことができた。</p> <p>○体育祭や文化祭など、学校行事に多くの保護者や地域の方々、関係者の方々に参観いただいた。</p> <p>○学校だよりやホームページを通じて、学校の方針や取組等について、保護者や地域の方々に知っていただくことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校区拡大大学校運営協議会では、校区の課題について情報共有することができた。 ・校区拡大大学校運営協議会では、地域全体で情報共有・情報交換することができ、とてもよい機会であると感じている。土日の部活動の地域移行への取組もそうですが、話し合ったあとの課題や問題点など、各学校へ持ち帰り、協議するところまでつなげていければもっと共通理解できると思います。 ・学校行事に地域や保護者など、たくさんの方が参加できるのはうれしい。 ・以前に比べて、中学校を気軽に訪問して、体育祭や文化祭の参観が楽しめるようになった。生徒たちの活発な姿に感動している。特に部活動の地域移行については、鈴鹿市の取組状況を知ることができた。 ・今後も、子どもたちの様子を参観できる場を設定していただき、地域全体で子どもたちを見守っていききたい。 ・これまでどおり取組をすすめていただきたい。 ・学校運営協議会の委員をさせていただき、鈴峰中へ度々おじゃまする機会を与えていただき、誠にありがとうございました。60代から有意義に充実した日々を送ることができました。校長先生をはじめ、諸先生方、職員の方、若くて元気いっぱいなのはつらつとした生徒たちにお会いでき、生活の張りや元気をたくさんいただきました。これからも地域から、生徒たちの姿を楽しみに拝見させていただきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区拡大大学校運営協議会では、児童生徒の課題や地域連携について交流するとともに、協議内容を各校の学校運営協議会においても継続的に熟議していく。 ・体育祭や文化祭など、生徒の活動する姿を地域の方々に参観していただく。また、学校だよりやホームページを活用して、学校の取組等を積極的に発信していく。 ・校区人権フォーラムには、各校の学校運営協議会委員の方々に参加いただくことで、校区の取組を周知していく。 ・校区校長会において、校区小中学校の地域連携の取組等を情報共有する。
働き方改革	<p>1 時間外労働時間の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日の設定 ・ICTの効果的な活用 ・業務の精選 <p>2 教職員の働き方に対する意識改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出勤システムを活用による自己管理 ・計画的な年休取得の推進 <p>※一人当たりの1か月時間外労働時間:平均30時間以内</p>	<p>○昨年度と比較して時間外労働時間は少なくなっている。</p> <p>△12月末現在、一人当たりの1か月時間外労働時間は24.6時間</p> <p>△年度当初や部活動の大会やコンクールの時期、定期テスト前後等は、時間外労働時間が増える。また、校務分掌等により個人差もあるが、月に時間外労働が45時間を超える職員がいる。</p> <p>○定期テストや長期休業中等、年休(一日あるいは時間休)を取得することができている。</p> <p>○職員の働き方に対する意識は変わってきている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員のメンタルも必要だが、管理職も十分気をつけていただきたい。 ・教職員数が少ないので大変かと思いますが、休暇はしっかり取得してください。 ・とにかく軽減されるようにと思っています。きりのない仕事ですので、どこかで切ったり、軽減したりと、精力を使い切らないようにお願いします。 ・教職員の皆様方には、本当に頭が下がります。いちばん重要な子育て、子どもの教育、生活に、一日に1/3以上の時間を費やしてもらっています。その他、大量のお仕事、働き方改革は、絵に描いた餅です、どうしたら、ゆとりが生まれるのでしょうか。 ・夜遅くまで学校の職員質の電気がついている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内における校務DXの活用により、情報の共有や再利用を徹底することで、事務処理の効率化を推進するとともに、学校運営の円滑化を促進する。 ・小規模校であるため、担当だけに任せるのではなく、教職員間の協働を促進することで、負担軽減と教育活動の質の向上を図る。 ・職場の同僚性を高め、風通しのよい職場、自律的な助け合いのできる職場づくりを進める。 ・教職員の働き方改革について、業務改善や部活動の見直し等、保護者や地域の理解を得るために情報発信を行う。